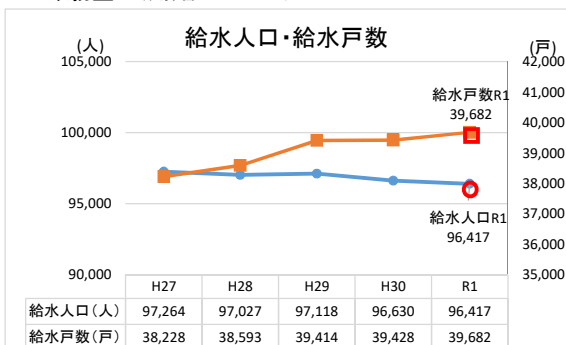


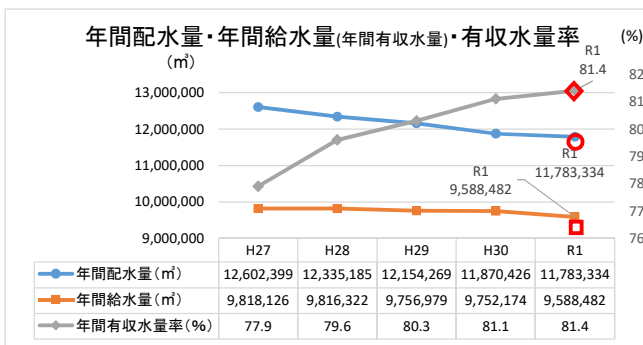
## 令和元年度安曇野市上下水道事業 決算概要

### I 水道事業決算概要

#### 1 業務量 (決算書 25ページ)



給水人口R1前年比-213人(H30前年比-488人)  
給水戸数R1前年比+254戸(H30前年比+14戸)

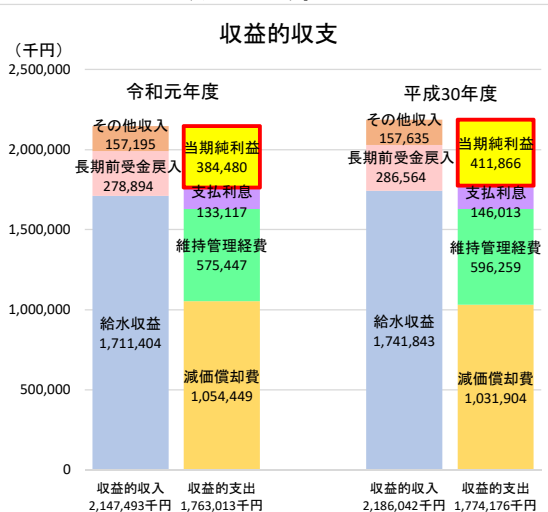


※R1地域別有収率  
豊科89.76%(前年90.77%) 穂高78.87%(前年78.43%) 三郷81.33%(前年83.4%) 堀金72.6%(前年69.26%) 明科73.82%(前年70.77%)  
\*R1に堀金地域延長4.1kmの漏水調査を行い、8箇所一日800m³の漏水を確認修繕した結果、R2には80%を見込む

#### 2 収益的収支 (損益計算書) (決算書 4~5ページ、25ページ、28~31ページ)

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。  
水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表しています。

収益的収支	令和元年度	平成30年度	増減	増減率
営業収益	1,865,572	1,895,413	△ 29,841	△ 1.57%
うち給水収益	1,711,404	1,741,843	△ 30,439	△ 1.75%
営業外収益	281,851	289,798	△ 7,947	△ 2.74%
うち長期前受金戻入	278,894	286,564	△ 7,670	△ 2.68%
収益計①	2,147,423	2,185,211	△ 37,788	△ 1.73%
営業費用	1,627,352	1,620,091	7,261	0.45%
うち減価償却費	1,054,449	1,031,904	22,545	2.18%
うち資産減耗費	25,063	28,472	△ 3,409	△ 11.97%
営業外費用	135,661	151,551	△ 15,890	△ 10.48%
費用計②	1,763,013	1,771,642	△ 8,629	△ 0.49%
経常損益①-②	384,410	413,569	△ 29,159	△ 7.05%
特別損益	70	△ 1,703	1,773	104.11%
純損益	384,480	411,866	△ 27,386	△ 6.65%



収益は21億4,742万3千円で、給水収益(-30,439千円)や長期前受金戻入の減少(-7,670千円)に伴い、3,778万8千円減少しました。  
\*給水収益の減少は、冷夏の影響も一つの要因と予想する  
費用は17億6,301万3千円で、動力費(-16,718千円)と資産減耗費(-3,409千円)や支払利息(-12,896千円)の減少に伴い、862万9千円減少しました。  
\*動力費の減少は新電力へ切り替えたことが一つの要因である  
純損益は2,738万6千円減少し、3億8,448万円(ビジョン3億5,564万円)の黒字となりました。

※表中収益計とグラフの収益的収入の差額7万円は特別損益です。

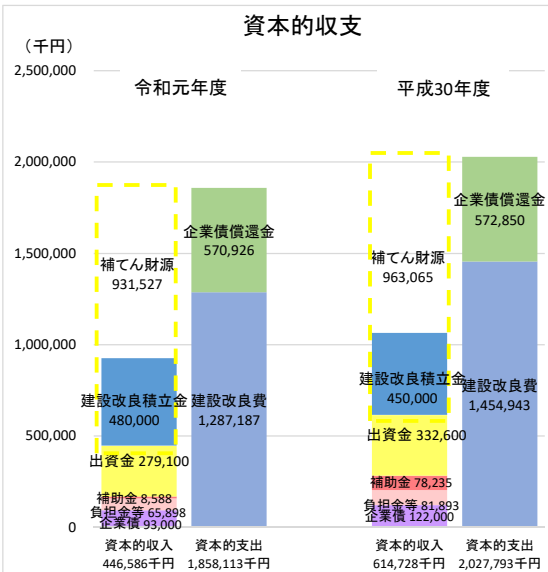
#### 3 資本的収支 (決算書 2~3ページ、32~33ページ)

水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

資本的収支	令和元年度	平成30年度	増減	増減率
資本的収入(a)	446,586	614,728	△ 168,142	△ 27.35%
うち企業債	93,000	122,000	△ 29,000	△ 23.77%
資本的支出(b)	1,858,113	2,027,793	△ 169,680	△ 8.37%
うち企業債償還金	570,926	572,850	△ 1,924	△ 0.34%
資本的収支不足額(a)-(b)	△ 1,411,527	△ 1,413,065	1,538	△ 0.11%
上記補てん財源				
消費税資本的収支調整額	107,843	95,186		
損益勘定留保資金(※1)	823,684	867,879		
建設改良積立金	480,000	450,000		

資本的収入は4億4,658万6千円で、企業債(-29,000千円)、一般会計出資金(-53,500千円)の減少により1億6,814万2千円減少しました。  
資本的支出は18億5,811万3千円で、1億6,968万円減少(工事費-165,889千円、豊科明科事業-30,920千円)しました。  
収支差引で不足する14億1,152万7千円は、過年度分損益勘定留保資金4億3,649万5千円、当年度分損益勘定留保資金3億8,718万9千円、建設改良積立金4億8,000万円の取り崩しなどで補てんしました。  
\*建設改良積立金年度末残高1,321,300千円(前年比-68,100千円)

(※1) 損益勘定留保資金  
施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金

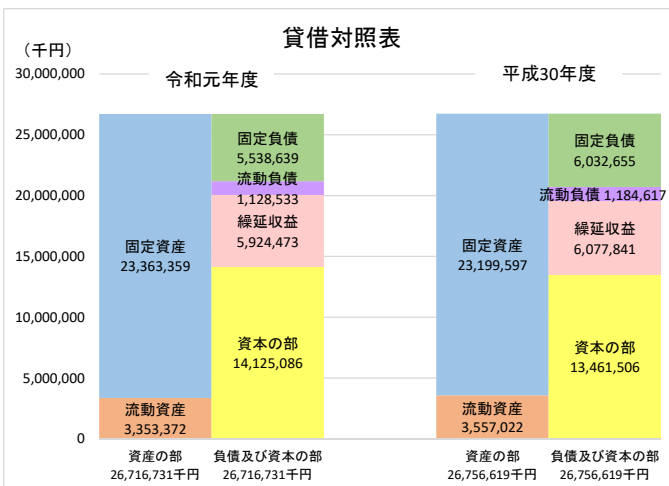


4 貸借対照表 (決算書 8~9ページ)

財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。  
(千円)

	令和元年度	平成30年度	増減
資産	26,716,731	26,756,619	△ 39,888
固定資産	23,363,359	23,199,597	163,762
流動資産	3,353,372	3,557,022	△ 203,650
うち現金	2,943,473	3,129,320	△ 185,847
負債	12,591,645	13,295,113	△ 703,468
固定負債	5,538,639	6,032,655	△ 494,016
うち企業債	5,538,639	6,032,655	△ 494,016
流動負債	1,128,533	1,184,617	△ 56,084
うち企業債	587,015	570,926	16,089
繰延収益	5,924,473	6,077,841	△ 153,368
資本	14,125,086	13,461,506	663,580
資本金	11,693,596	10,964,496	729,100
剰余金	2,431,490	2,497,010	△ 65,520
資本剰余金	193,990	193,990	0
利益剰余金	2,237,500	2,303,020	△ 65,520
負債+資本 計	26,716,731	26,756,619	△ 39,888

令和元年度は企業債の借入を行いました。企業債償還等により負債は7億346万8千円減少しました。  
また、前年度決算で取り崩した建設改良積立金と一般会計出資金を資本金へ組入れたため資本金は増加しました。

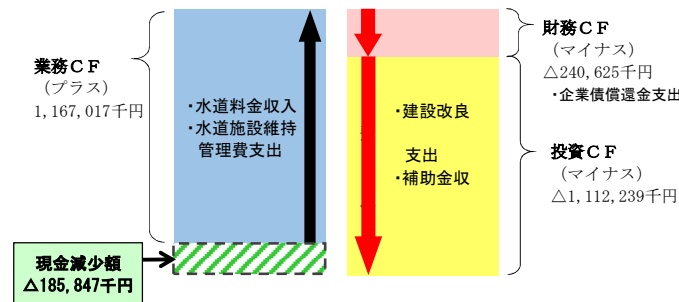


5 キャッシュ・フロー計算書 (決算書 27ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。  
業務CFでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。  
投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はマイナスとなります。  
財務CFでは、資金調達や企業債の返済に伴う現金の増減を表します。企業債を返済した場合はマイナス、借入れた場合はプラスとなります。

	令和元年度	平成30年度	増減
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,167,017	1,170,395	△ 3,378
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,112,239	△ 875,076	△ 237,163
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 240,625	△ 355,550	114,925
現金増減額	△ 185,847	△ 60,231	△ 125,616
現金期首残高	3,129,320	3,189,551	△ 60,231
現金期末残高	2,943,473	3,129,320	△ 185,847

業務活動による現金は、11億6,701万7千円のプラスで順調な経営状況となっています。投資活動による現金は、11億1,223万9千円のマイナスで主要管路整備導・配水管布設替工事、豊科・明科地域整備事業等の建設改良費を支出しました。財務活動による現金は、2億4,062万5千円のマイナスで企業債・一般会計出資金の収入を企業債償還金の支出が上回りました。現金の期末残高は、29億4,347万3千円となりました。

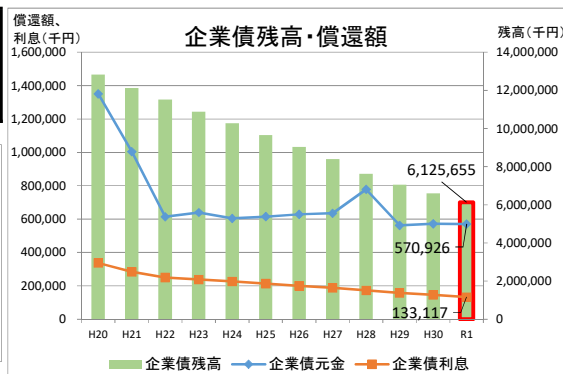


6 企業債 (決算書 26ページ、35~36ページ)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
年度末残高	8,396,461	7,617,532	7,054,430	6,603,580	6,125,655
借入額	0	0	0	122,000	93,000

令和元年度は主要管路整備送配水管布設工事費の財源を確保するために、9,300万円の企業債を新たに借入れました。  
一方で、5億7,092万6千円の元金償還により、年度末の企業債残高は61億2,565万5千円(比増62億3,032万7千円)となりました。  
また、企業債利息として1億3,311万7千円を支払いました。

**\*地域別未償還残高**  
豊科2,423百万円、穂高3,012百万円、三郷63百万円、堀金627百万円、明科0円  
**\*水道事業企業債元利未償還残高は、R1年度61億2,565万円からR10年度12億2,238万円、R20年度7,738万円となる**



7 利益剰余金 (決算書 6~7ページ)

	前年度からの繰越利益剰余金 A	920
当年度変動額 B	864,480	
当年度純利益	384,480	
積立金、資本剰余金の取り崩し	480,000	
当年度未処分利益剰余金 (C=A+B)	865,400	

利益剰余金処分(案)	(千円)
建設改良積立金の積立	△ 384,500
資本金への組入れ	△ 480,000
処分数計 D	△ 864,500
翌年度への繰越利益剰余金 (E=C-D)	900

当年度未処分利益剰余金は、前年度繰越額92万円と当年度純利益3億8,448万円、資金的収支の不足額を補てんするために建設改良積立金を取り崩した4億8,000万円等の合計8億6,540万円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。  
当年度の利益は、後年度の更新事業の財源に充てるため、建設改良積立金へ積立てます。

# 令和元年度に上水道事業で実施した主な取組みについて

## ① 主要管路整備事業

### 《導水・配水管布設》

水源から拠点配水池に接続している導水管、災害時の避難所や病院等の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ主要管路整備を行い、重要給水施設への給水ルートの耐震化を進めることができました。

管吊り込み状況



配管状況



しゅん工状況



## ② 豊科明科地域整備事業

### 《送配水管布設》

犀川右岸側に位置する豊科明科地域の配水系の統一化のため、送水管、配水管の布設をしました。昨年完成した配水池への送水及び配水による、水道水の犀川右岸地域への安定供給と耐震化が進みました。

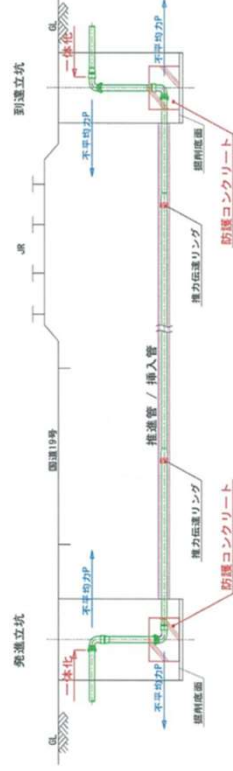


図 4.7.1 推進部の防護コンクリート概要図（国道19号・JR横断部）

## ③ 施設更新事業

### 《送水ポンプ更新工事》

上水道施設の正常な運転を維持するため、点検結果や更新基準を基に施設の更新を行い、常に安定した施設の状態を確保します。田沢調整池、豊里水源池、豊里水源池、上長尾第1水源池の送水ポンプ更新を行いました。

管吊り込み状況



配管状況



しゅん工状況



● 主要管路布設工事 4路線 C=131,955千円 L=2,145.6m (R1穂高・三郷)

● 送配水管布設工事 8路線 C=554,731千円 L=2,706.6m (豊科光・明科光)

## ④ 安全な水道水の供給

### 《濁度計設置工事》

拠点配水池に接続している水源に濁度計を設置することにより、地震などによる取水の濁りを感じ、同時に取水を停止することができ、配水池内に濁った水の流入を防止することができます。

田沢調整池



豊里水源池



上長尾第1水源池



### 《濁度計設置工事》

拠点配水池に接続している水源に濁度計を設置することにより、地震などによる取水の濁りを感じ、同時に取水を停止することができ、配水池内に濁った水の流入を防止することができます。



上原水源池  
排泥弁制御盤



上原水源池濁度計



中央監視室



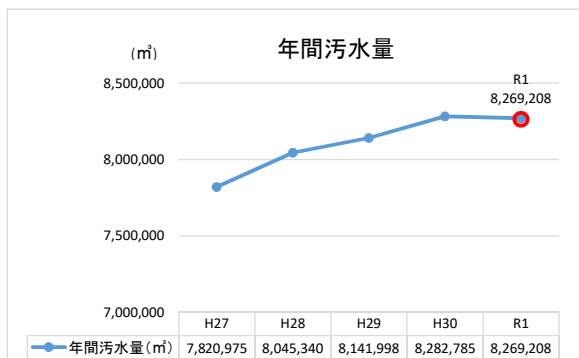
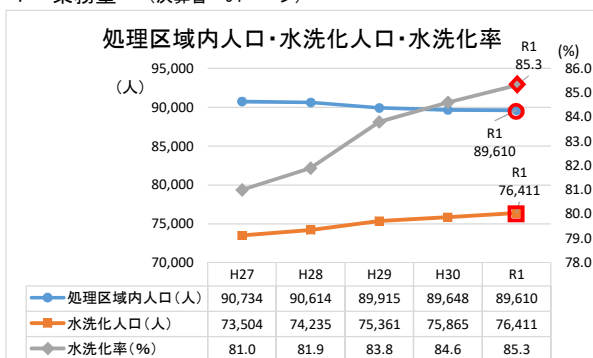
上長尾水源池濁度計

● 送水ポンプ更新工事 3箇所 C=25,763千円

● 濁度計設置工事 2箇所 C=68,200千円

II 下水道事業決算概要

1 業務量 (決算書 54ページ)



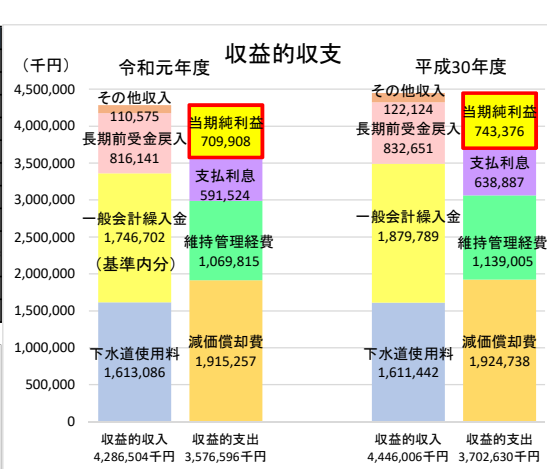
水洗化人口R1前年比+546人(H30前年比+504人)  
 水洗化率R1前年比+0.7%(H30前年比+0.8%)  
 \*地域別水洗化率 豊科88.6%穂高78.4%三郷89.2%堀金83.9%明科85.3%

汚水量R1前年比-13,577m³(H30前年比+140,787m³)

2 収益的収支(損益計算書) (決算書 42~43ページ、55ページ、58~61ページ)

使われた水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。  
 下水道がどのくらい使用され、その汚水を処理するまでにどのくらい費用がかかっているのかを表しています。

収益的収支	令和元年度	平成30年度	増減	増減率
営業収益	1,639,711	1,631,743	7,968	0.49%
うち下水道使用料	1,613,086	1,611,442	1,644	0.10%
営業外収益	2,646,793	2,814,263	△ 167,470	△ 5.95%
うち一般会計繰入金	1,746,702	1,879,789	△ 133,087	△ 7.08%
収益計①	4,286,504	4,446,006	△ 159,502	△ 3.59%
営業費用	2,978,143	3,055,678	△ 77,535	△ 2.54%
うち減価償却費	1,915,257	1,924,738	△ 9,481	△ 0.49%
営業外費用	598,453	646,952	△ 48,499	△ 7.50%
費用計②	3,576,596	3,702,630	△ 126,034	△ 3.40%
経常損益①-②	709,908	743,376	△ 33,468	△ 4.50%
特別損益	0	0	0	0.00%
純損益	709,908	743,376	△ 33,468	△ 4.50%



収益は42億8,650万4千円で、下水道使用料の増加(+1,644千円)に伴う一般会計繰入金の減少(-133,087千円)により、1億5,950万2千円減少しました。収益合計の4割は一般会計繰入金が占めています。

\*下水道使用料の増加は、水洗化人口(件数)の増加が要因である  
 費用は35億7,659万6千円で、犀川安曇野流域下水道維持管理負担金(-59,846千円)、減価償却費(-9,481千円)及び支払利息(-47,363千円)の減少に伴い、1億2,603万4千円減少しました。  
 純損益は3,346万8千円減少し、7億990万8千円(経営戦略8億2,944万3千円)の黒字となりました。

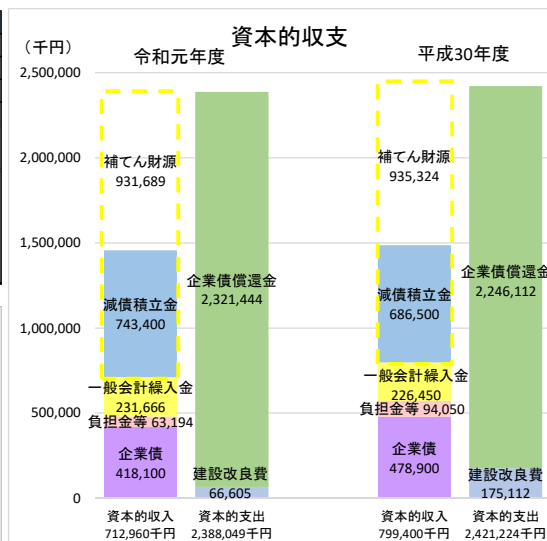
3 資本的収支 (決算書 40~41ページ、62~63ページ)

下水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

資本的収支	令和元年度	平成30年度	増減	増減率
資本的収入(a)	712,960	799,400	△ 86,440	△ 10.81%
うち資本費平準化債	362,100	322,100	40,000	12.42%
資本的支出(b)	2,388,049	2,421,224	△ 33,175	△ 1.37%
うち企業債償還金	2,321,444	2,246,112	75,332	3.35%
資本的収支不足額(a)-(b)	△ 1,675,089	△ 1,621,824	△ 53,265	3.28%
上記補てん財源				
消費税資本的収支調整額	0	5,325		
損益勘定留保資金(※1)	931,689	929,999		
減価積立金	743,400	686,500		

資本的収入は7億1,296万円で、企業債の借入れ(-60,800千円)及び受益者負担金(-30,412千円)の減少により、8,644万円減少しました。  
 資本的支出は23億8,804万9千円で、企業債償還金(+75,332千円)は増加しましたが、建設改良費が1億850万7千円減少しました。  
 収支差引で不足する16億7,508万9千円は、過年度分損益勘定留保資金1億9,714万2千円、当年度分損益勘定留保資金7億3,454万7千円と減価積立金7億4,340万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金  
 施設の減価償却費などの現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



(参考) 一般会計繰入金収入額の比較 (決算書 58ページ、62ページ)

	令和元年度	平成30年度	増減
一般会計繰入金合計	1,983,609	2,107,893	△ 124,284
収益的収入	1,751,943	1,881,443	△ 129,500
資本的収入	231,666	226,450	5,216

※収益的収入グラフとの差額は基準外繰入金(営業収益)分です。  
 (令和元年度 524万1千円、平成30年度 165万4千円)

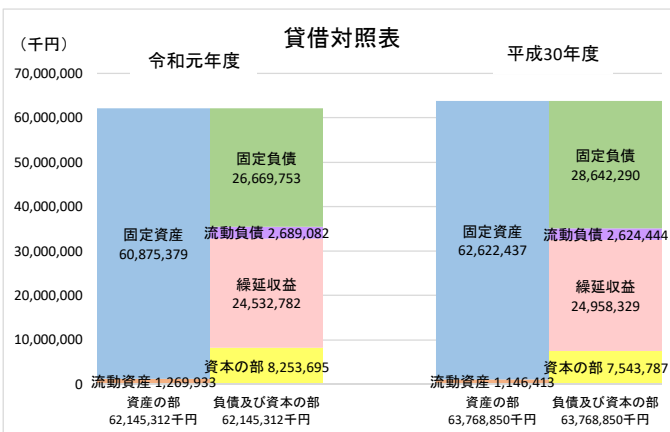
収益的収入基準内繰入金	1,746,702
収益的収入基準外繰入金	5,241
上記合計	1,751,943



4 貸借対照表 (決算書 46~47ページ)

財政状態を表し、保有している財産や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

	令和元年度	平成30年度	増減
資産	62,145,312	63,768,850	△ 1,623,538
固定資産	60,875,379	62,622,437	△ 1,747,058
流動資産	1,269,933	1,146,413	123,520
うち現金	1,158,343	1,024,384	133,959
負債	53,891,617	56,225,063	△ 2,333,446
固定負債	26,669,753	28,642,290	△ 1,972,537
うち企業債	26,669,753	28,642,290	△ 1,972,537
流動負債	2,689,082	2,624,444	64,638
うち企業債	2,390,637	2,321,444	69,193
繰延収益	24,532,782	24,958,329	△ 425,547
資本	8,253,695	7,543,787	709,908
資本金	6,402,773	5,716,273	686,500
剰余金	1,850,922	1,827,514	23,408
資本剰余金	397,447	397,447	0
利益剰余金	1,453,475	1,430,067	23,408
負債+資本 計	62,145,312	63,768,850	△ 1,623,538

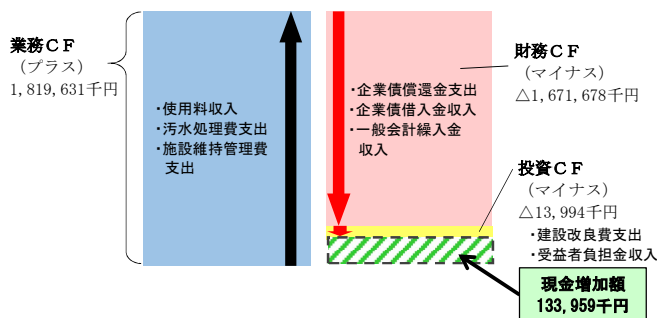


企業債残高が290億6,039万円で、負債合計の約54%を占めています。また、前年度決算で取り崩した減債積立金を資本金へ組入れたため、資本金が増加しました。

5 キャッシュ・フロー計算書 (決算書 57ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。業務CFでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常は、マイナスになります。財務CFでは、資金調達や企業債の返済に伴う現金の増減を表します。企業債を返済した場合にマイナス、借入れた場合にプラスとなります。

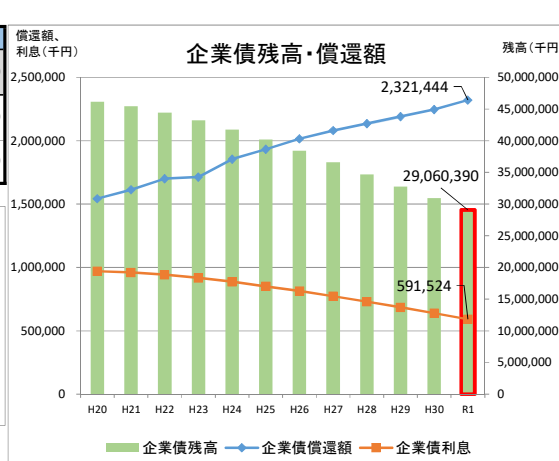
	令和元年度	平成30年度	増減
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,819,631	1,866,422	△ 46,791
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,994	△ 39,314	25,320
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,671,678	△ 1,540,762	△ 130,916
現金増減額	133,959	286,346	△ 152,387
現金期首残高	1,024,384	738,038	286,346
現金期末残高	1,158,343	1,024,384	133,959



業務活動による現金は、18億1,963万1千円のプラスで順調な経営となっています。投資活動による現金は1,399万4千円のマイナスで、犀川安曇野流域下水道事業にかかる負担金等を支出しました。財務活動による現金は、16億7,167万8千円のマイナスで企業債の償還金を支出しました。現金の期末残高は、11億5,834万3千円となりました。

6 企業債 (決算書 56ページ、65~78ページ)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
年度末残高	36,611,813	34,699,360	32,730,946	30,963,734	29,060,390
借入額	248,200	223,500	221,900	478,900	418,100
うち資本費平準化債	0	0	0	322,100	362,100



令和元年度は、下水道事業債5,600万円と資本費平準化債3億6,210万円を借入れました。一方で、23億2,144万4千円の元金償還により、年度末の企業債残高は290億6,039万円となりました。また、企業債利息として5億9,152万4千円を支払いました。

**\*企業債別未償還残高**  
 公共下水道21,412百万円、特定環境保全3,488百万円、流域下水道2,530百万円、農集排943百万円  
**\*下水道事業企業債元利未償還残高は、R1年度290億6,039万円からR10年度82億5,202万円、R20年度1億7,972万円となる**

7 利益剰余金 (決算書 44~45ページ)

	(千円)
前年度からの繰越利益剰余金 A	167
当年度変動額 B	1,453,308
当年度純利益	709,908
積立金の取り崩し	743,400
当年度末処分利益剰余金 (C=A+B)	1,453,475

利益剰余金処分 (案)	(千円)
減債積立金の積立	△ 709,900
資本金への組入れ	△ 743,400
処分額 計 D	△ 1,453,300
翌年度への繰越利益剰余金 (E=C-D)	175

当年度末処分利益剰余金は、前年度繰越額167千円と当年度純利益7億990万8千円、資金的収支の不足額を補てんするために減債積立金を取り崩した7億4,340万円の合計14億5,347万5千円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。当年度の利益は、企業債返済の財源に充てるため、減債積立金へ積立されます。

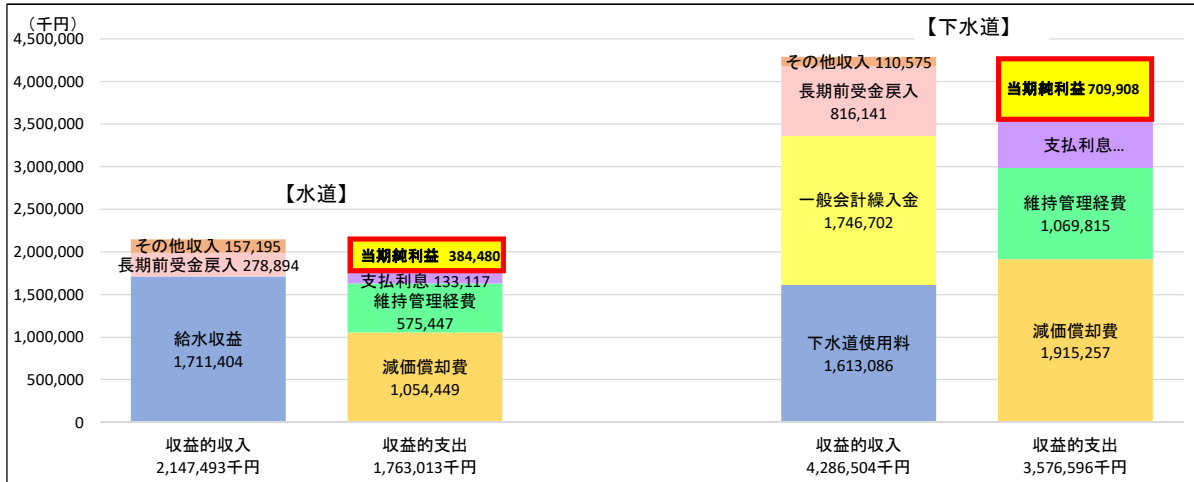
# 令和元年度に下水道事業で実施した主な取組みについて

<p><b>①施設の維持管理</b></p> <p>《下水道施設維持管理》          処理場5施設とマンホールポンプ場160箇所および管きよ79.7kmの適正な運転・維持管理に取り組み、水環境の保全に努めました。</p>  <p>高圧洗浄作業          下水管内のカメラ調査、管路内清掃、腐食マンホール蓋の交換及び補修</p>  <p>カメラ調査 1,991m          管路清掃 2,020m          腐食マンホール蓋の交換 5箇所</p>  <p>洗淨汚水吸引作業          公共ます設置 5箇所</p> 	<p><b>②防災対策事業</b></p> <p>《防災対策》          防災訓練において、長時間の停電時にも施設の運転を継続するための、非常用発電機を使用し、停電を想定した訓練を実施し、電源の供給手順を確認し、電気保安教育安全講習会を実施しました。</p>     <p>左から          ①電気保安教育安全講習会の実施          ②非常用発電機搬出手順の確認状況          ③電源供給のための、導線接続状況          ④電流整流の確認状況</p>
<p><b>③公共下水道事業・特定環境保全公共下水道事業</b></p> <p>●維持管理費 C=166,465千円          委託費:126,973千円 汚泥処分費:19,002千円 修繕費:20,490千円</p> <p>《管きよ工事》          宅内汚水ポンプ設置 1箇所</p>   <p>着手前</p>  <p>竣工</p> <p>公共ます設置 5箇所</p>	<p><b>④流域下水道事業</b></p> <p>《建設負担金》          長野県が行う流域下水道事業の建設負担金を支出しました。          (令和元年度 事業内容)          砂ろ過棟屋根防水工事、塩素砂ろ過棟耐震化工事、ポンプ棟耐震化工事、消化ガス発電設備工事など</p>    <p>着手前</p>    <p>補強</p>    <p>竣工</p> <p>砂ろ過棟屋根防水工事          消化ガス発電設備工事          (発電機増設)          塩素砂ろ過棟耐震化工事(壁閉塞)</p> <p>●管きよ工事費 C=5,112千円          ●流域下水道事業費 C=60,422千円</p>

### Ⅲ 水道事業・下水道事業の比較

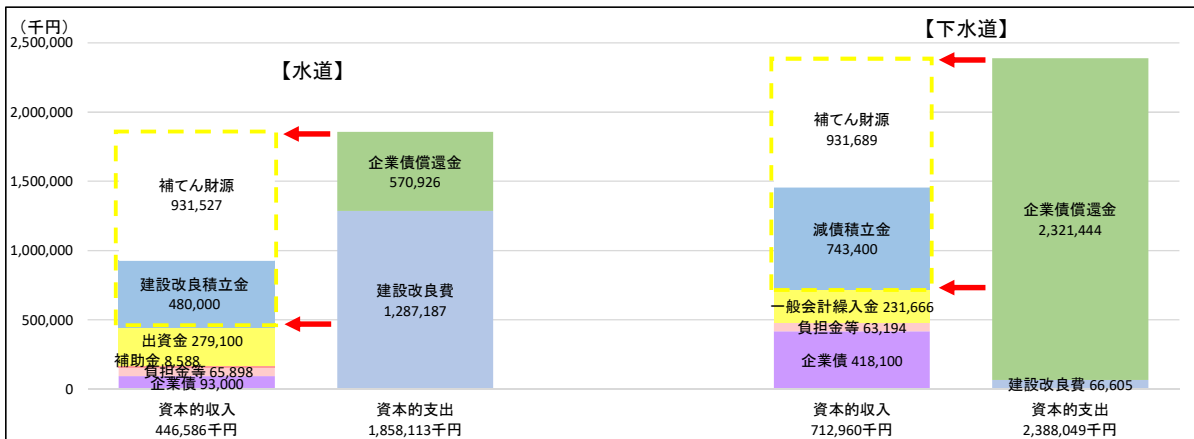
#### 1 収益的収支(損益計算書)

水道事業では、給水収益で費用のほとんどを賄っていますが、下水道事業では、使用料収入だけでは費用全体の4割程度しか賄っていません。下水道事業の経営には、一般会計からの繰入金が必要不可欠であることが分かります。



#### 2 資本的収支

2事業とも施設の整備等に係る財源の不足が発生します。水道事業は、過年度及び当年度に発生した損益勘定留保資金(減価償却費等)や建設改良積立金などにより、不足分を補っています。同様に下水道事業も過年度及び当年度に発生した損益勘定留保資金や減価積立金などにより不足分を補っています。



#### 3 貸借対照表

財政状態を比較すると、水道事業は資産、負債ともに下水道事業のおおよそ4割となり、事業規模の差がよく分かります。水道事業は、主要管路布設替工事、下水道事業は流域下水道建設負担金の財源として企業債の借入れを行いながら、多額な返済も行っています。

